

2024 就職先アンケート調査

集計結果報告書

2025 年 4 月

浦山学園 富山福祉短期大学

富山福祉短期大学 卒業生就職先アンケート調査 集計結果報告書

目次

I. 調査の概要	2
II. 就職先アンケート調査 回答結果	3
1. 新入職員としての評価	3
2. 新入職員に対して最も重視するもの	11
3. 新入職員に対して足りないと感じていること、入職前に身につけておいてほしいこ と	16
4. 新入職員の専門知識・技術として不足しているもの	19
5. その他、本学の教育に対するご指摘、ご要望など	21
III. まとめ	24
IV. 学科ごとの考察	32
V. 令和 5 年卒業生対象の就職先アンケート結果との比較	34
VI. 卒業生アンケートと就職先アンケート調査集計結果の比較	35
VII. 分析者の所感	35
VIII. 就職先アンケート調査表	38

I. 調査の概要

■調査目的

- ・社会のニーズに応えられる人材の育成と輩出を図り、今後の本学の教育サービスの充実と改善につなげる
- ・調査結果を踏まえた教育改革・改善

■調査対象:

令和6年3月卒業の卒業生／修了生（143名）のうち102名（75事業所）
（社福20、看護25、幼教22、観光6、専攻科2）

■調査方法:

調査対象者に郵送にてアンケート用紙を送付し、返信用封筒にて返送

■調査期間:

令和6年12月4日～令和6年12月28日

■回収結果:

送付数:102件、回収件数:69件（回収率67.6%）
（社福16、看護26、幼教23、観光4）

II. 就職先アンケート調査 回答結果

学科

	回答数	%
社会福祉学科	16	23.2%
看護学科	26	37.7%
幼児教育学科	23	33.3%
国際観光学科	4	5.8%
全体	69	100.0%

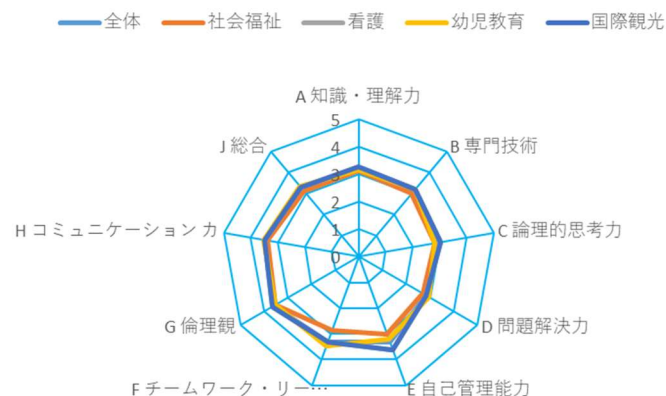
1. 新入職員としての評価

II-1-1. ◆全学科

各学科（社会福祉 16 名、看護 26 名、幼児教育 23 名、国際観光 4 名）、全学科（全体 69 名）の評価平均値は以下になる。総合評価では、すべての学科で 3.13～3.35 の範囲に収まっており、大きな差は見られないものの、幼児教育学科が最も高い 3.35 の評価を得ている。次いで看護学科と国際観光が 3.30、社会福祉学科が 3.13 の総合評価を受けている。全体最も高い評価項目は G 倫理観、3 未満は C 論理的思考力と D 問題解決力である。次の項目で各学科の新人職員としての評価を見ていく。

評価項目	社会福祉	看護	幼児教育	国際観光	全体
A 知識・理解力	3.13	3.27	3.17	3.27	3.19
B 専門技術	3.00	3.19	3.22	3.19	3.15
C 論理的思考力	2.81	3.04	2.83	3.04	2.90
D 問題解決力	2.69	2.85	2.96	2.85	2.85
E 自己管理能力	3.00	3.62	3.22	3.62	3.30
F チームワーク・リーダーシップ	2.88	3.31	3.48	3.31	3.30
G 倫理観	3.50	3.65	3.52	3.65	3.58
H コミュニケーション力	3.38	3.50	3.52	3.50	3.49
J 総合	3.13	3.30	3.35	3.30	3.28

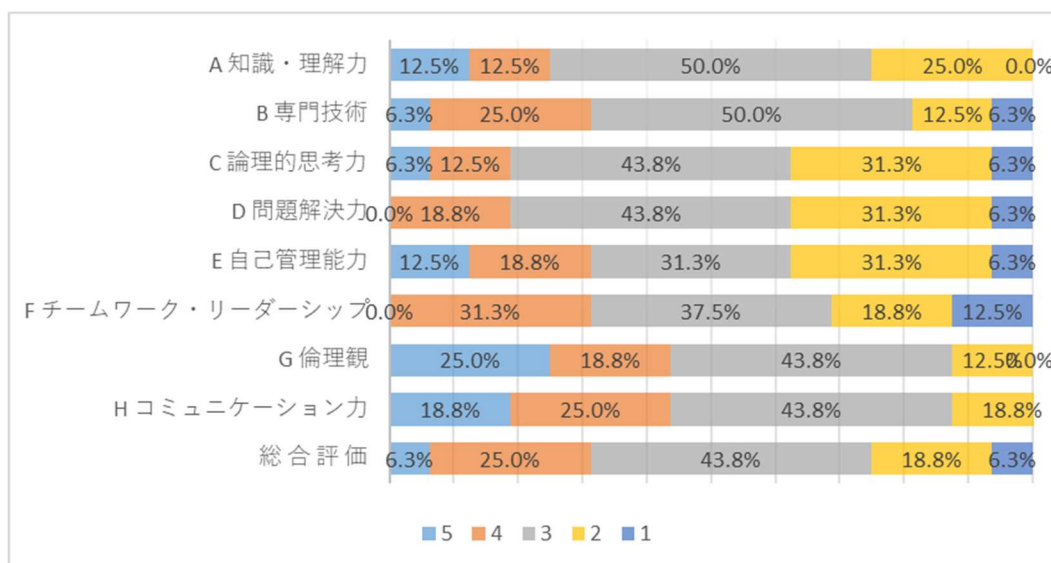
卒業生（全体）の評価平均



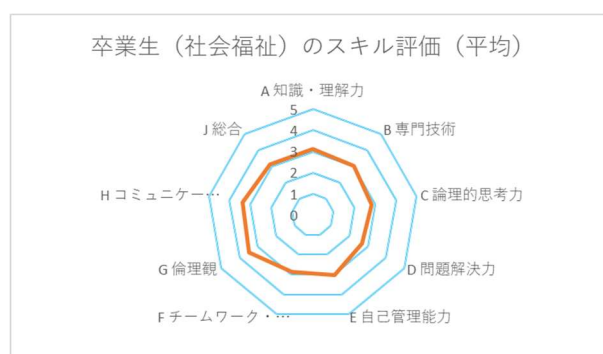
II-1-2.◆社会福祉学科（16名）

「5.優秀」から「1.劣る」まで幅広く分布する結果となっている。G 倫理観では14名（87.5%）が「5.優秀」～「3. 普通」評価を与えられており高い倫理観が育成されていることが伺える。H コミュニケーション力も14名（87.5%）、B 専門技術も13名（81.3%）が「5.優秀」～「3. 普通」の評価を与えられており高いコミュニケーション力と専門技術を求められる社会福祉分野の要望に応えられていることが分かる。一方でチームワーク・リーダーシップでは2名が「1.劣る」の評価となっている。C 論理的思考力、D 問題解決力、E 自己管理能力も「2.やや劣る」「1.劣る」の評価がそれぞれ5名（31.1%）1名（6.3%）ずつ与えられておりこの分野での強化が求められる。平均値が1番高いのは倫理観（3.5）で1番低いのは問題解決力（2.69）となっている。介護施設では利用者の個別ニーズに応じた支援、職員間の連携、トラブル対応など様々な問題が発生する。そのために①状況把握力（問題の本質を見抜く）②分析力（原因を特定し、対策を考える）③意思決定力（適切な判断を下し、実行する）④柔軟性（状況に応じて適切な対応を取る）のようなスキル（※）が求められる。これらの力を学生のうちに養うにはインターンシップやボランティアで現場体験を積むこと、ケーススタディで現場で起こりうる問題を想定しどう解決すべきかを考えるトレーニング（事例研究、グループディスカッション）などが効果的と考えられる。論理的思考力を磨くには介護・福祉に関するテーマで論理的なレポートを書く、事例研究をまとめ、「なぜこの解決策が有効か？」を論理的に説明するトレーニングを行うことで向上が期待できる。また、普段からPDCAサイクル（Plan 計画、Do 実行、Check 評価、Act 改善）を意識し、実習やボランティアの経験を振り返り、「どのように対応すればよりよい解決策が生まれるか？」を学生同士でディスカッションすることも効果的である。

社会福祉学科(16名)						
	5	4	3	2	1	全体
A 知識・理解力	2	2	8	4	0	16
	12.5%	12.5%	50.0%	25.0%	0.0%	100.0%
B 専門技術	1	4	8	2	1	16
	6.3%	25.0%	50.0%	12.5%	6.3%	100.0%
C 論理的思考力	1	2	7	5	1	16
	6.3%	12.5%	43.8%	31.3%	6.3%	100.0%
D 問題解決力	0	3	7	5	1	16
	0.0%	18.8%	43.8%	31.3%	6.3%	100.0%
E 自己管理能力	2	3	5	5	1	16
	12.5%	18.8%	31.3%	31.3%	6.3%	100.0%
F チームワーク・リーダーシップ	0	5	6	3	2	16
	0.0%	31.3%	37.5%	18.8%	12.5%	100.0%
G 倫理観	4	3	7	2	0	16
	25.0%	18.8%	43.8%	12.5%	0.0%	100.0%
H コミュニケーション力	3	3	7	3	0	16
	18.8%	18.8%	43.8%	18.8%	0.0%	100.0%
総合評価	1	4	7	3	1	16
	6.3%	25.0%	43.8%	18.8%	6.3%	100.0%



評価項目	社会福祉(平均)
A 知識・理解力	3.13
B 専門技術	3.00
C 論理的思考力	2.81
D 問題解決力	2.69
E 自己管理能力	3.00
F チームワーク・リーダーシップ	2.88
G 倫理観	3.50
H コミュニケーション力	3.38
J 総合	3.13

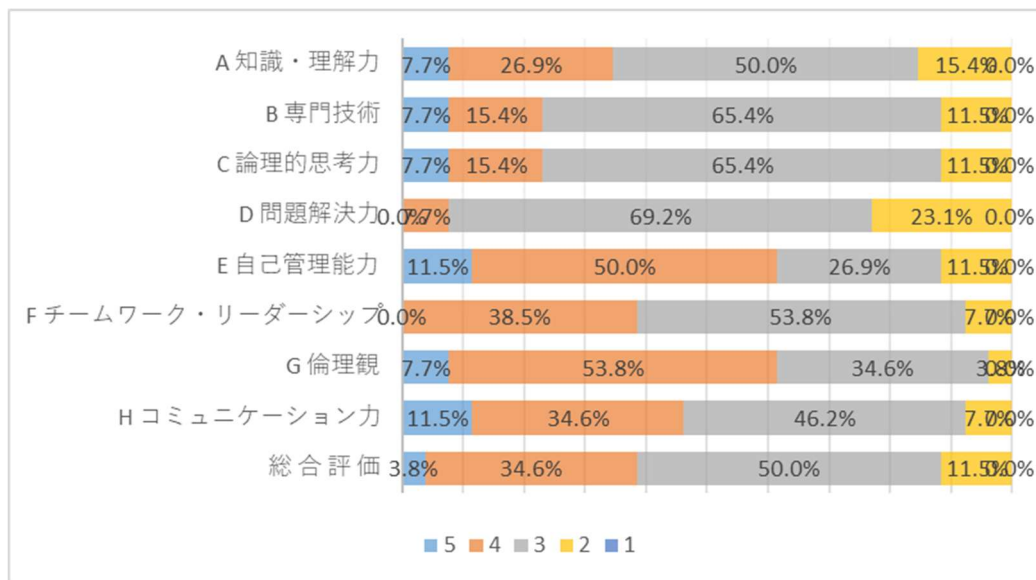


II-1-3.◆看護学科（26名）

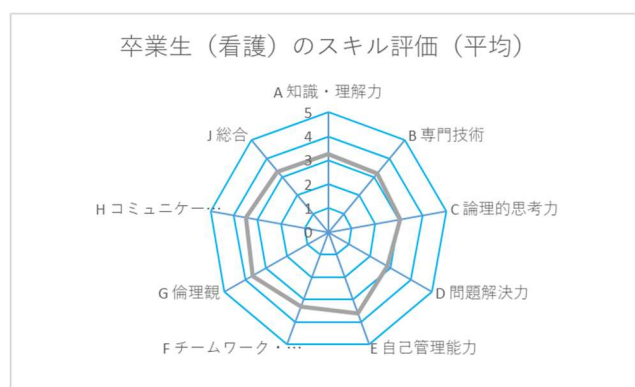
「5.優秀」から「2.やや劣る」に分布しており「1.劣る」の評価は見られない結果となっている。G 倫理観では26名中25名（96.1%）が「5.優秀」～「3.普通」の評価を与えられており大部分の看護学科生に高い倫理観が備わっていることが伺える。次にチームワーク・リーダーシップとH コミュニケーション力も共に24名（92.3%）が「5.優秀」～「3.普通」の評価を与えられており看護現場に求められるチームワーク・リーダーシップとコミュニケーション力を備えていることが分かる。B 専門技術とC 論理的思考力も23名（88.4%）が「3.普通」以上の評価を与えられており専門技術と論理的思考を求められる看護師業務の要望に充分に応えられていることが分かる。一方でD 問題解決力では6名が「2.やや劣る」の評価となっておりこの分野での強化が求められる。総じてD 問題解決力以外は8割以上「3.普通」の評価を与えられおり評価が高いと言える。平均値が1番高いのは倫理観（3.65）で1番低いのは問題解決力（2.85）となっている。患者のケア、医療チームとの連携、突発的なトラブルへの対応など医療現場では日々さまざまな課題に直面する中で問題解決力は重要である。社会福祉学科卒業生と同様に①～④のスキル（※）に加えてチームワーク・コミュニケーション力（医療スタッフ間の連携を円滑にする）も求められる。実習・インターンシップ、ケーススタディで問題解決力を強化することに加え、クリティカルシンキング（批判的思考力）を鍛える必要もある。医療現場では「なぜこの処理が必要なのか?」、ある治療法や処置について「この方法は本当にベストなのか?」と疑問を持ち、エビデンスを調べる、「なぜこの患者に

はこの薬が処方されたのか？」と作用機序を調べる、など論理的に考える習慣をつけることで問題解決力も身に付いていくと考えられる。看護記録を書く際に「どの情報をどう記録すれば他のスタッフが適切に判断できるか？」を考えながら書くことも論理的思考力／問題解決力向上に繋がる。患者・家族とのコミュニケーションを強化することでも本質的な問題を見抜くことがトレーニング次第で可能となる。看護の専門知識だけでなく最新の医療技術・制度を学びアップデートさせていくことも求められている。

看護学科 (26名)						
	5	4	3	2	1	全体
A 知識・理解力	2 7.7%	7 26.9%	13 50.0%	4 15.4%	0 0.0%	26 100.0%
B 専門技術	2 7.7%	4 15.4%	17 65.4%	3 11.5%	0 0.0%	26 100.0%
C 論理的思考力	0 0.0%	5 19.2%	17 65.4%	4 15.4%	0 0.0%	26 100.0%
D 問題解決力	0 0.0%	2 7.7%	18 69.2%	6 23.1%	0 0.0%	26 100.0%
E 自己管理能力	3 11.5%	13 50.0%	7 26.9%	3 11.5%	0 0.0%	26 100.0%
F チームワーク・リーダーシップ	0 0.0%	10 38.5%	14 53.8%	2 7.7%	0 0.0%	26 100.0%
G 倫理観	2 7.7%	14 53.8%	9 34.6%	1 3.8%	0 0.0%	26 100.0%
H コミュニケーション力	3 11.5%	9 34.6%	12 46.2%	2 7.7%	0 0.0%	26 100.0%
総合評価	1 3.8%	9 34.6%	13 50.0%	3 11.5%	0 0.0%	26 100.0%



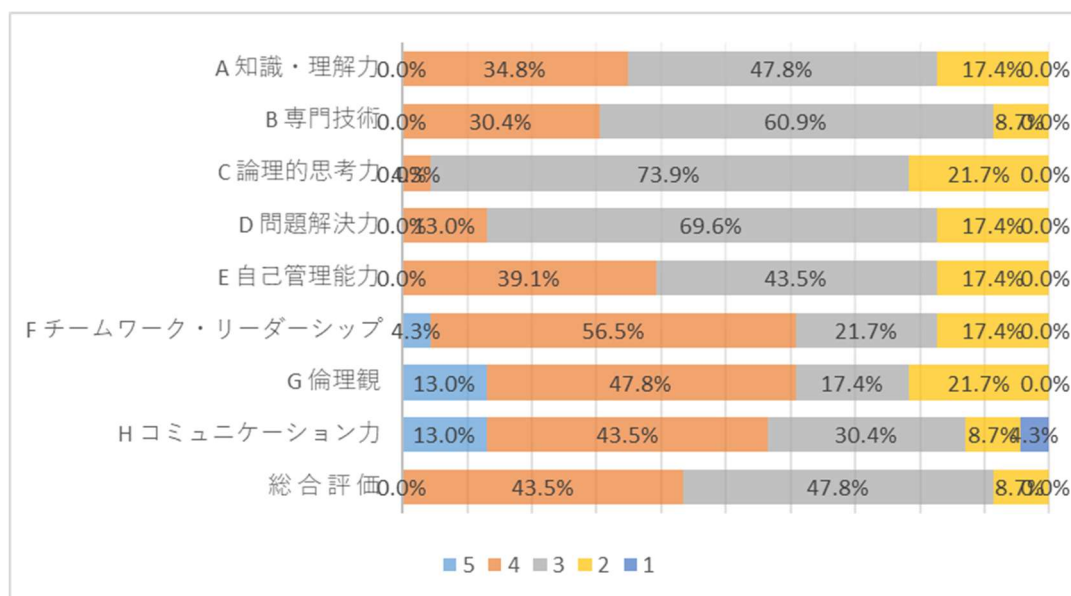
評価項目	看護
A 知識・理解力	3.27
B 専門技術	3.19
C 論理的思考力	3.04
D 問題解決力	2.85
E 自己管理能力	3.62
F チームワーク・リーダーシップ	3.31
G 倫理観	3.65
H コミュニケーション力	3.50
J 総合	3.30



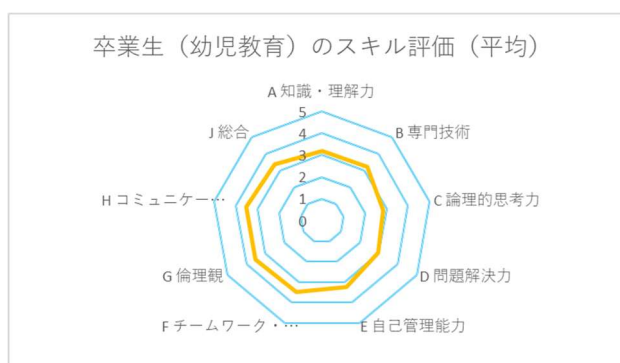
II-1-4.◆幼児教育（23名）

「5.優秀」から「1.劣る」まで幅広く分布する結果となっている。総合評価が「4.やや優秀」～「3.普通」で91.3%占められており高い評価が与えられている。項目別ではB専門技術において23名中21名(91.3%)が「4.やや優秀」～「3.普通」に「4.やや優秀」～「3.普通」の評価を与えられており**大部分の幼児教育学生に高い専門技術が備わっていることが伺える**。次に H コミュニケーション力において 23 名中 20 名 (86.9%)「5.優秀」～「3.普通」の評価を与えられており、幼児教育現場で必須となる高いコミュニケーションが育成されていることが分かる一方で C 論理的思考力と G 倫理観では5名が「2.がやや劣る」の評価となっておりこの分野での強化が求められる。平均値が1番高いのは倫理観（3.52）コミュニケーション力（3.52）で 1番低いのは論理的思考力（2.83） となっている。高い倫理観と論理的思考力を持つ幼児教育卒業生が多くいる中（78.2%）、倫理観と論理的思考力をより高く伸ばす必要のある卒業生も2割以上いる。保育・教育現場での倫理的な問題について事例と共に学ぶ、実習後に「自分の行動が適切だったか」「倫理的な判断が求められる場面はあったか」を振り返る、教育倫理について指導教員や先輩保育士とディスカッションするなどが求められる。また、幼児教育現場では子供へ活動内容の説明や保護者への対応、園内の運営においても論理的思考力は重要である。このスキルを向上させるには計画を立てて振り返る習慣をつける、保育・教育に関するテーマで論理的なレポートを書く習慣をつける、教育実習の振り返りやケーススタディを文章にまとめ、自分の考えを整理する、学生同士、教員と議論する機会など求められる。保護者対応のロールプレイを学生同士で行い、論理的な説明をする練習を行うことも効果的である。その際に「なぜこの遊びを取り入れるのか?」「子どもの発達にどう影響するのか?」を明確に説明できるようにすることで論理的思考力が身に付いていく。より根拠を持って説明するために最新の幼児教育や発達心理学を学び続け、知識をアップデートさせることも大切である。また、多様な価値観を持つ人と交流することで相手の立場を理解する力が養われるので敢えて幼児教育ではない現場（福祉現場、サービス業など）での実習から新たな学びが得られる可能性も期待できる。

幼児教育学科（23名）						
	5	4	3	2	1	全体
A 知識・理解力	0 0.0%	8 34.8%	11 47.8%	4 17.4%	0 0.0%	23 100.0%
B 専門技術	0 0.0%	7 30.4%	14 60.9%	2 8.7%	0 0.0%	23 100.0%
C 論理的思考力	0 0.0%	1 4.3%	17 73.9%	5 21.7%	0 0.0%	23 100.0%
D 問題解決力	0 0.0%	3 13.0%	16 69.6%	4 17.4%	0 0.0%	23 100.0%
E 自己管理能力	0 0.0%	9 39.1%	10 43.5%	4 17.4%	0 0.0%	23 100.0%
F チームワーク・リーダーシップ	1 4.3%	13 56.5%	5 21.7%	4 17.4%	0 0.0%	23 100.0%
G 倫理観	3 13.0%	11 47.8%	4 17.4%	5 21.7%	0 0.0%	23 100.0%
H コミュニケーション力	3 13.0%	10 43.5%	7 30.4%	2 8.7%	1 4.3%	23 100.0%
総合評価	0 0.0%	10 43.5%	11 47.8%	2 8.7%	0 0.0%	23 100.0%



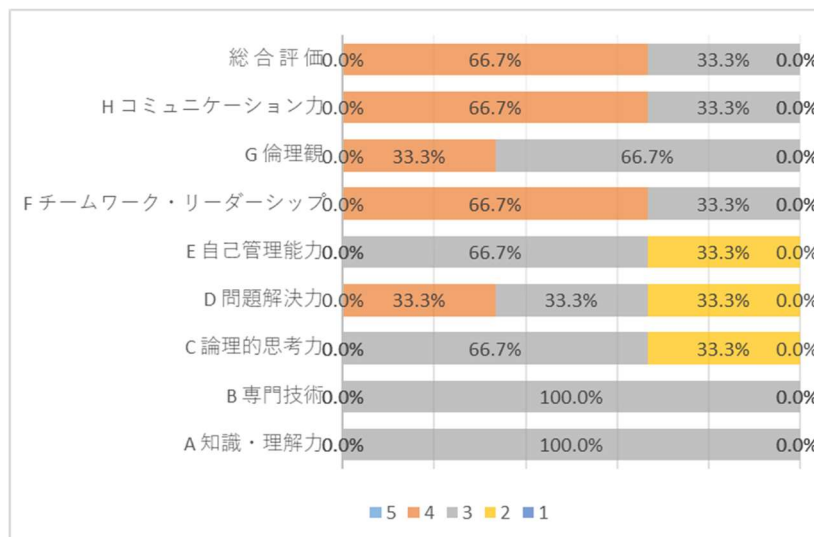
評価項目	幼児教育
A 知識・理解力	3.17
B 専門技術	3.22
C 論理的思考力	2.83
D 問題解決力	2.96
E 自己管理能力	3.22
F チームワーク・リーダーシップ	3.48
G 倫理観	3.52
H コミュニケーション力	3.52
J 総合	3.35



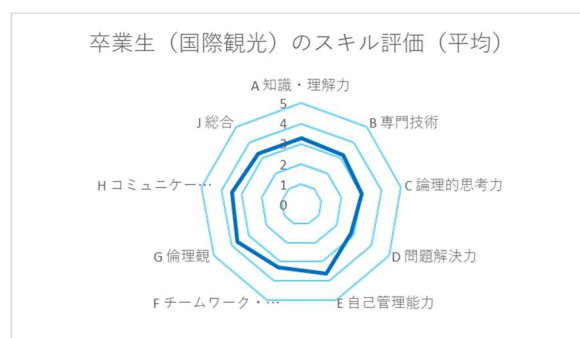
II-1-5.◆国際観光

4件の回答のうち3件しか得られず「4.やや優秀」から「2.やや劣る」に分布するものの「3.普通」に評価が集中する結果となっている。総合評価が3名中2名（66.6%）「4.やや優秀」という評価を得ており、コミュニケーション力の高さが3名中2名（66.6%）「4.やや優秀」という評価から伺える。一方、E 自己管理能力、D 問題解決力、C 論理的思考力では「2.やや劣る」が3名中1名（33.3%）与えられておりこの分野での強化が求められる。評価平均値が1番高いのは倫理観（3.65）で1番低いのは問題解決力（2.85）となっている。ホテル業、営業、営業事務の仕事では、日々さまざまな課題に直面するため、問題解決力が重要なスキルになる。例えば、ホテル業界では予約のトラブル（オーバーブッキング、クレーム対応）、お客様からの要望に迅速かつ適切に対応する異文化理解を活かしたサービス改善などで問題解決力が求められる。営業職では顧客のニーズを正確に把握し、最適な提案をする、競合との差別化を図り、売上を伸ばす、クライアントからのクレームや難しい交渉に対応する際に問題解決力が求められる。営業事務では社内外の連携をスムーズにし、業務を効率化する、データや資料の整理・分析を行い、問題点を見つける、顧客対応やチームの業務サポートを的確に行う際などに問題解決力が求められる。問題解決力を伸ばすために、学生のうちにできる具体的な取り組みとしてはアルバイト・インターンで現場経験を積む際に接客やクレーム対応を経験する、実際のビジネス課題を題材にして、ディカッションを通じて解決策を考える、顧客対応のロールプレイを行い、問題解決型の会話力を鍛えるなどのトレーニングが考えられる。また、自己管理とストレスマネジメントを強化することも大切なので問題が発生したときに冷静に対応できる習慣をつけることも求められる。

国際観光学科（4名）							
	5	4	3	2	1	全体	無回答
A 知識・理解力	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	1
B 専門技術	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	1
C 論理的思考力	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	1
D 問題解決力	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	1
E 自己管理能力	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	1
F チームワーク・リーダーシップ	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	1
G 倫理観	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	1
H コミュニケーション力	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	1
総合評価	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	1



評価項目	国際観光
A 知識・理解力	3.27
B 専門技術	3.19
C 論理的思考力	3.04
D 問題解決力	2.85
E 自己管理能力	3.62
F チームワーク・リーダーシップ	3.31
G 倫理観	3.65
H コミュニケーション力	3.50



2. 新入職員に対して最も重視するもの

II-2-1.◆総合

新入職員に対して求められているスキル

実際の評価（平均）

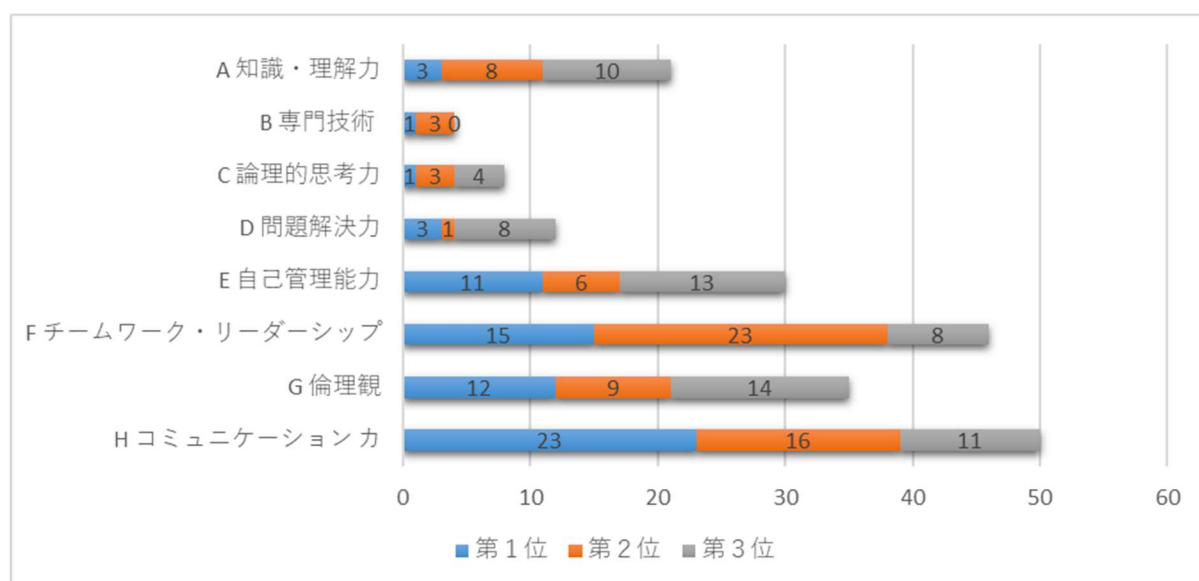
総合	第1位	第2位	第3位	合計
A 知識・理解力	3	8	10	21
B 専門技術	1	3	0	4
C 論理的思考力	1	3	4	8
D 問題解決力	3	1	8	12
E 自己管理能力	11	6	13	30
F チームワーク・リーダーシップ	15	23	8	46
G 倫理観	12	9	14	35
H コミュニケーション力	23	16	11	50

全体評価（平均）
3.19
3.15
2.90
2.85
3.30
3.30
3.58
3.49

1位

2位

3位



総合では1位：コミュニケーション力（50）、2位：チームワーク・リーダーシップ（46）、3位：倫理観（35）の順で新入職員に対して重視する項目という結果となった。前項1.の全卒業生への評価（1位：倫理観、2位：コミュニケーション力、3位：自己管理能力・チームワーク・リーダーシップ）と比較するとすべて1～3位内に収まっていることから就職先の職員が新入職員に求めるスキルと本学卒業生の評価（平均）が一致していることが伺える。次いでE 自己管理能力も30票と高い数値であるが本学卒業生の評価平均は3.3であることから要求は満たしていると言える。次の項から各学科の各スキルを詳細に分析していく。

II-2-2.◆社会福祉学科

新入職員に対して求められているスキル

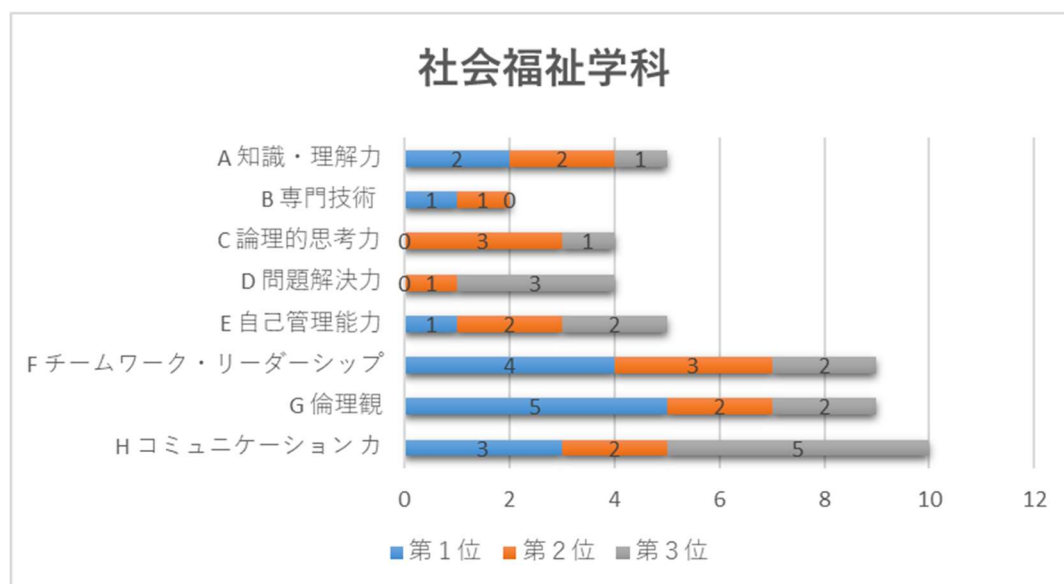
実際の評価（平均）

社会福祉学科	第1位	第2位	第3位	合計	社会福祉(評価)
A 知識・理解力	2	2	1	5	3.13
B 専門技術	1	1	0	2	3.00
C 論理的思考力	0	3	1	4	2.81
D 問題解決力	0	1	3	4	2.69
E 自己管理能力	1	2	2	5	3.00
F チームワーク・リーダーシップ	4	3	2	9	2.88
G 倫理観	5	2	2	9	3.50
H コミュニケーション力	3	2	5	10	3.38

1位

2位

3位



社会福祉学科では1位：コミュニケーション力（10）、2位：チームワーク・リーダーシップ（9）、倫理観（9）、3位：自己管理能力（5）知識・理解力（5）の順で新入職員に対して重視する項目という結果となった。前項1.の社会福祉学科卒業生への評価（1位：倫理観、2位：コミュニケーション力、3位：知識・理解力）と比較すると知識・理解力、倫理観、コミュニケーション力は1位～3位に収まっているものの、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力は収まっていないことから社会福祉学科生はチームワーク・リーダーシップ、自己管理能力の強化が求められていると言える。介護施設で働く際に求められる自己管理能力には以下のスキルが含まれる。①時間管理能力（シフト勤務に対応し、業務を効率よく進める）②体調管理（体力が求められる仕事であり、健康を維持する）③感情管理・ストレスマネジメント（利用者や家族、職場の人間関係に対応する）④自己学習・スキルアップ（介護・福祉に関する知識を継続的に学ぶ）⑤プライベートとのバランス管理（仕事とプライベートのメリハリをつける）。これらのスキルを学生のうちに伸ばすには①To-Do リストやスケジュール管理の習慣化、シフト制のアルバイトやボランティアで時間管理の実践②規則正しい生活・運動・規則正しい生活・運動・食事を意識し、体力をつける③ストレス解消法を見つけ、感情をコントロールする力をつける④資格取得の学習を習慣化し、最新の福祉情報を学ぶ⑤休息の大切さを理解し、ON と OFF を切り替える、などが挙げられる。「時間管理 × 体調管理 × ストレス管理 × 継続学習」を意識することで、介護施設で活躍するための自己管理能力の向上が期待できる（チームワーク・リーダーシップについては次項で触れる）。

II-2-3.◆看護学科

新入職員に対して求められているスキル

実際の評価（平均）

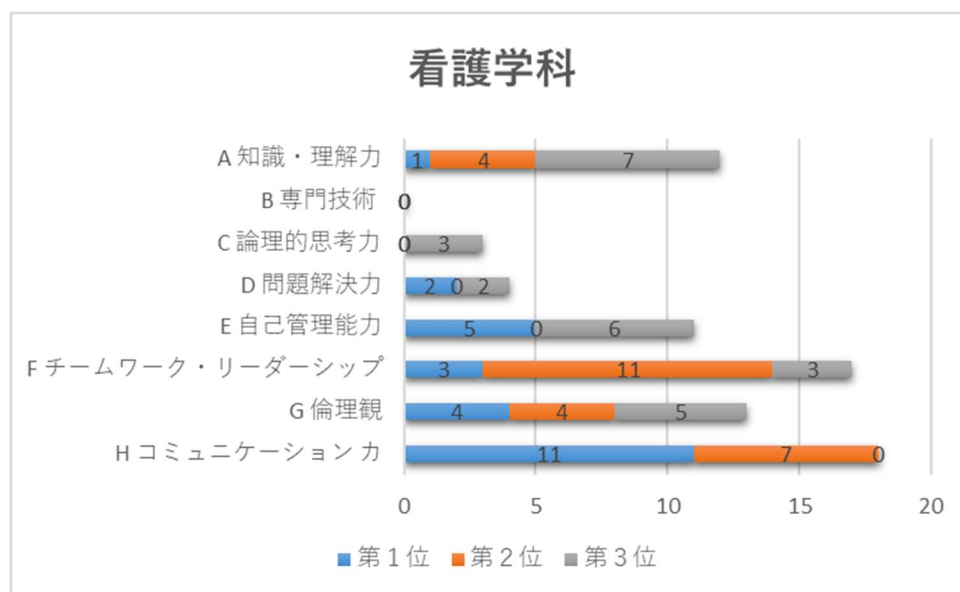
看護学科	第1位	第2位	第3位	合計
A 知識・理解力	1	4	7	13
B 専門技術	0	0	0	0
C 論理的思考力	0	0	3	3
D 問題解決力	2	0	2	4
E 自己管理能力	5	0	6	11
F チームワーク・リーダーシップ	3	11	3	17
G 倫理観	4	4	5	13
H コミュニケーション力	11	7	0	18

看護(評価)
3.27
3.19
3.04
2.85
3.62
3.31
3.65
3.50

1位

2位

3位



看護学科では1位：コミュニケーション力（18）2位：チームワーク・リーダーシップ（17）3位：知識・理解力（12）、自己管理能力（12）の順で新入職員に対して重視する項目という結果となった。前項1.の看護学科卒業生への評価（1位：倫理観、2位：コミュニケーション力、3位：自己管理能力）と比較すると自己管理能力、倫理観、コミュニケーション力は1位～3位に収まっているものの、チームワーク・リーダーシップは収まっていないことから本学看護学科生はチームワーク・リーダーシップ力の強化が求められていると言える。看護現場で求められるチームワーク・リーダーシップには医療チーム内で円滑なコミュニケーションを取る、医師や他のスタッフと協力して患者ケアを行う、チーム内での役割を理解し適切に動く、などのチームワーク力と状況を把握し、適切な判断を下す、後輩や新人看護師を指導する、チーム全体の目標達成に向けて調整するなどのリーダーシップ力が求められている。これらのスキルを磨くために学生のうちからできる具体的な取り組みとしては実習中にチーム内の役割を意識して取り組むことが大切である。実習中に「看護師」「医師」「リハビリスタッフ」「薬剤師」など、それぞれの職種の役割を理解し、どのように情報共有し、協力しているのかを観察し、学ぶことでチームワーク力が高まる。また、グループ実習では積極的にリーダー役を引き受けて他の学生や指導看護師と連携し業務を円滑に進める、報連相を徹底することでリーダーシップ力を高めることに繋がる。また、自己管理能力とも共通するがストレス耐性や感情のコントロール能力も求められる。自分なりのストレス発散方法を確立しておく、ケーススタディや実習を通じてプレッシャーのかかる場面でも落ち着いて対応する練

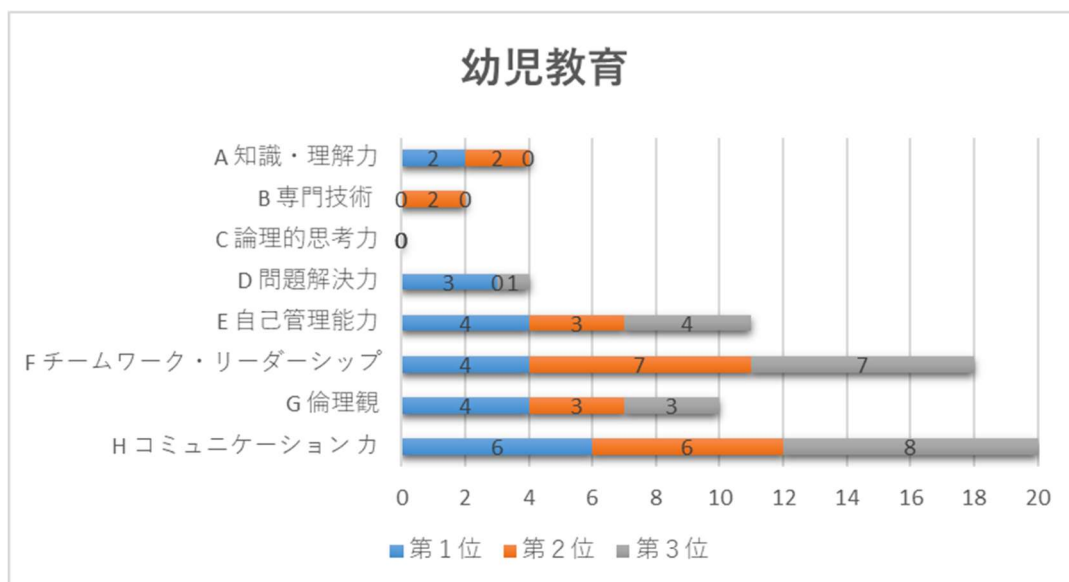
習をするなどが効果的と考えられる。

II-2-4.◆幼児教育

新入職員に対して求められているスキル

実際の評価（平均）

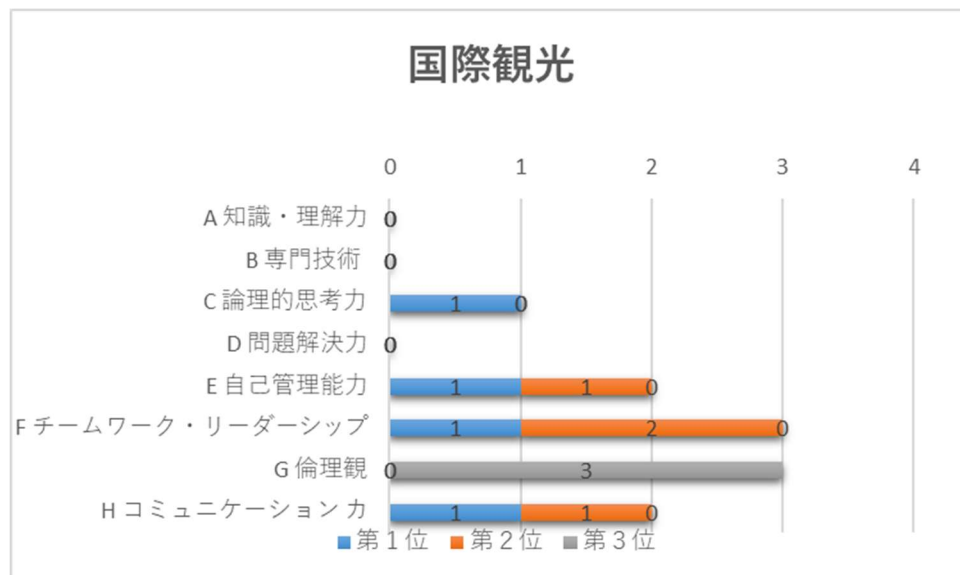
幼児教育	第1位	第2位	第3位	合計	幼児教育(平均)	
A 知識・理解力	0	2	2	4	3.17	
B 専門技術	0	2	0	2	3.22	
C 論理的思考力	0	0	0	0	2.83	
D 問題解決力	1	0	3	4	2.96	
E 自己管理能力	4	3	4	11	3.22	
F チームワーク・リーダーシップ	7	7	4	18	3.48	1位
G 倫理観	3	3	4	10	3.52	2位
H コミュニケーション力	8	6	6	20	3.52	3位



幼児教育学科では1位：コミュニケーション力（20）2位：チームワーク・リーダーシップ（18）3位自己管理能力（11）の順で新入職員に対して重視する項目という結果となった。前項1.の幼児教育学科卒業生への評価（1位：倫理観、コミュニケーション力、3位：チームワーク・リーダーシップ）と比較すると倫理観、チームワーク・リーダーシップ、コミュニケーション力は1位～3位に収まっているものの次点の自己管理能力は収まっていないため本学幼児教育学科生は自己管理能力の強化が求められていると言える。卒業後に保育施設等で求められる自己管理能力を高めるために学生のうちに出来る取り組みとしては①時間管理能力の向上（スケジュール管理の習慣をつけ、実習で時間通りに行動する練習）②体調管理の習慣化（朝型生活を意識し、体力をつける）③ストレスマネジメントを鍛える（ストレス発散方法を見つけ、感情をコントロールする習慣をつける）④業務管理能力を高める（保育記録の作成や行事の運営を経験する）⑤自己学習を続ける（保育の最新知識を学び、幼児教育のトレンドをキャッチアップする）⑥仕事とプライベートのバランスを取る（休息を大切にし、無理をしすぎない習慣をつける）などが挙げられる。

II-2-5.◆国際観光

国際観光	第1位	第2位	第3位	合計	国際観光(平均)	
A 知識・理解力	0	0	0	0	3.27	
B 専門技術	0	0	0	0	3.19	
C 論理的思考力	1	0	0	1	3.04	
D 問題解決力	0	0	0	0	2.85	
E 自己管理能力	1	1	0	2	3.62	1位
F チームワーク・リーダーシップ	1	2	0	3	3.31	2位
G 倫理観	0	0	3	3	3.65	3位
H コミュニケーション力	1	1	0	2	3.50	



国際観光学科では回答件数が4件と少ないものの1位：チームワーク・リーダーシップ(3)と倫理観(3)、3位：自己管理能力(2)、コミュニケーション力(2)の順で新入職員に対して重視する項目という結果となった。前項1.の国際観光学科卒業生への評価(1位：倫理観、2位：自己管理能力、3位：コミュニケーション力)と比較すると自己管理能力、倫理観、コミュニケーション力が1位～3位に収まっているものの次点のチームワーク・リーダーシップは収まっていないため本学国際観光学科生はチームワーク・リーダーシップ力の強化が求められていると言える。卒業後に国際観光施設等で求められる自己管理能力を高めるために学生のうちに出来る取り組みとして①チームでの活動を増やす(グループワークやゼミでリーダーシップを発揮する、ボランティアやイベント運営に参加し、チームでの役割を経験する)②アルバイト・インターンで実践経験を積む(ホテル業や営業職の現場で、チームプレーを学ぶ)③ロールプレイングでリーダーシップを養う(クレーム対応や交渉の場面を想定し、練習する)④コミュニケーション力を高める(傾聴力、プレゼン力を鍛える)⑤ストレス管理・冷静な判断力を身につける(困難な状況でも落ち着いて行動できるようにする)などが挙げられる。

3.新入職員に対して足りないと感じていること、入職前に身につけておいてほしいこと

II-3-1.◆社会福祉学科

特にコミュニケーション力です。本人の資質や特性もありますが、やや劣ると散見されました。 つきましては、報告・連絡・相談のスキルを就学時より身につけられるような研修なり、カリキュラムを検討いただければと思います。

技術や知識は入職後に指導できるので、入職後に学びの機会を提供できるので、入職後にどのような社会人をイメージして成長していきたいか、芯を持って入ってきて欲しい

口頭、文章での理解はできるが行動に接することができない 自己評価は高いができないことが見えてこない

チームワークが重要な仕事なので、協調性があり社会的倫理観をもっている方は、近代とても貴重だと感じます。

社会人として必要なマナーやスキル。固定電話のかけ方が分からないことには少し驚きました。入職後ビジネスマナーを指導することは可能ですが、昨今、取り扱い方から教える必要性が高まっています。SNS に関しても今後、ネットリテラシーに対する指導の強化が求められてくるものと感じおります。

あすみる入職後、こちらの主観ではありますが気になった点を少しまとめてみました。アンケート内容ではまとめきれなかったもので、別紙で記入させて頂きました。コミュニケーション能力が低いせいか、同僚や上司との関係づくりが上手くいっていない感じが見受けられます。同僚からはあまり評価する言葉は聞かれず、「入職して半年は過ぎているので、もう少し仕事を覚えてほしい。周りをみてほしい。若いから仕方がないのか。」と苦言が聞かれます。利用者からも「距離が近すぎる」と苦情を受けたことがあります、本人に距離感について注意を促したこともあります。その後も同じような苦情を利用者から受け付けました。利用者も体調がしんどかったり悩んだりすることもあります。そういった状況に気付けなかったようでもありました。利用者・職員両方で人との距離の取り方が未熟です。言葉の意図が伝わらないせいか、齟齬が生じることも多くみられます。「正直にわからないことはわからないと言ってほしい。」と伝えたこともあります。敬語が使い慣れていないことや時折言葉使いが荒っぽくなるのが気になります。周囲が見えてなかったり配慮が足りていなかったりすることで他者に迷惑をかけていることがあると思いますが本人は気付いていないと思います。最近、少し丸くなった印象はありますが以前は感情的になるせいか反発する様子もありました。上司に対し「声はかけず見守ってほしい」とこちらが啞然とするような返答が聞かれることがありました。夏場、ノースリーブを着用して出勤されました。脇がみえ、露出が激しく男性メンバーを刺激する恐れもあるため、女性スタッフから注意をもらいました。仕事で気付かないことや間違ったことがあったとしても「すみません」と謝罪の言葉が聞かれず、別のところに責任をもっていくこともあるので「自責の念」が弱いようにも感じます。こちらの指導不足というものがありますが、この世代の「感覚」がわからなくなることがあります。全く仕事が出来ないわけではなく、もちろん良いところもありますが、物足りなさを感じます。いわゆる報連相もできないわけではないのですが、もう少しあっていいのかと思うことがあります。彼女の長所は積極性のようなのですが、空回りしてうまく機能していないと思います。もう少し素直になったり感謝の気持ちを持ったり想像力を掻き立てたりしながら仕事をしてほしいです。あすみる以外の他事業所からも最近の新入社員に対し、「伝わらない、行動がおかしひ、仕事が出来な

い、すぐ辞めていく」と多々聞かれますが、どちらも人手不足ということもあって、注意や指導がしづらい状況かと思います。短大の限られた時間やその人の人間性のなかで、何を学び・行動に移していくかは考えさせられるところです。悪く書いたところもありますが彼女の成長に期待しています。最後にアンケートはもう少し回答期限があったらよいと思いました。記：あすみる 齊藤
Gの倫理観は社会に出て働くにあたり、重要なことと考えます。コミュニケーション力も、人相手の仕事のため、自分の事を伝えられる能力は できれば身につけておいてほしいと思います。
社会人として規範やルールを守ること 相手に思いやりを持った言動を心がけ、素直に仕事に取り組む姿勢・細かく報連相を行い、指摘や助言を受け入れ、経験から得た知識を自分自身の目標やスキルアップに活用できる。
世の中の傾向として、入職に1~3年で退職というのが少なくないようです。まずは3年やってみてという忍耐力や精神面の強さがあるといいなと 思います。(古い考えだと言われかねないですが....)
○疑問を持つこと。 ○疑問を持ち調べること。
責任感、探求心、仕事の効率化
相手に聞こえるようにあいさつすること こまかいことでも報告、連絡、相談すること 積極性

II-3-2.◆看護学科

本人たちに悪気はなく、単に知識や経験が不足しているのだと思います。学生時代に部活動で先輩と関わる経験や、アルバイトでお客様と接する経験など、学業以外の社会的な経験を大切にしていけるとありがたいです。
人物に興味を持つことが大切だと思います。それが“気づき”につながり、対人職にとって必要なスキルの向上にもつながると考えています。また、自分を知ってもらおうとする表現力が年々薄れてきていると感じます。
患者様の尊厳を守ること 敬意をはらうこと
学生時代の学びを入職後の実践につなげるために、日々の振り返りを行い、それを次に生かしていくよう心がけてほしいと思います。
他人との関わりでは、連絡する。相談すること、人にたよることが普通に出来るとよい。
提出期限の厳守 あいさつ
他の新入職員でコミュニケーション力と自己管理能力が足りないと感じます。悩んでいることを相談できなかったり、周りに助けを求めていくことが上手くできず、かかえこんでしまいのりこえられないことが多いと感じます。
必要な学習を継続して行うこと 指導されている内容 受け止める力
提出期限の厳守 あいさつ
看護師同士、患者さんやそのご家族、さらにチーム医療における他職種との連携など、さまざまな場面でコミュニケーション力が求められます。円滑なコミュニケーションを図ることで、医療や看護を的確かつスムーズに遂行することにつながります。そのため、ぜひコミュニケーション力を身につけていただきたいと考えています。
自身のこと、業務のことなど他者へ正しく伝えるコミュニケーション能力
コミュニケーション力

外国人の看護師資格取得後の向上心
自ら積極的に学びを得ようとする姿勢(与えられること、準備されることを待っている) 社会人、職業人(専門職)という意識
身につけてほしいことは、患者さん(高齢者)に対して、人生の先輩であるという敬う心をもってほしいと思います。
言語化して他者へ伝える力を身につけていることを望みます。 教える側にも思考発話をする力が求められますが、新人看護師ともに身につけていることで学びがより深めていけると感じています。
社会や施設のルールに則って行動する事:体調不良時の報告、遅刻・欠勤をする時の連絡。提出物を期限内に提出するなどの基本的な事。メールの送り、内容等
社会人基礎力を構成する3つの能力の中で、前に踏み出す(主体性)、考え抜く力(課題発見力)、チームで働く力(規律性・ストレスコントロール力)が足りないと感じています
報告、伝え方
社会人基礎力
他者理解、他者とのコミュニケーション、自律した行動や積極性、自ら専門職業人として学ぶ姿勢
社会人基礎力
ビジネスマナー
コミュニケーション能力、向上心、応用力、責任感

II-3-3.◆幼児教育学科

元気に明るく挨拶をすることや向上心をもって仕事に取り組む姿勢が大切だと思います。 失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦する気持ちと振り返りができるようになることが望ましい。
接遇
積極的に学ぼうとする姿勢が大切と感じます。
一般教養 一般常識 正しい言葉使い
体調を崩す事があったので体調管理をしっかりできるようになると良い。
社会人としての基本的な挨拶や、電話応対、コミュニケーション力などを入職前に 身につけていただいていると、専門的なことへ早く学びを進めていくことができると考えます。
挨拶をする、時間や提出期限を守る、身だしなみに気を配るなど、社会人としてあたり前のことや生活環境、人との関わりの中でいろいろなことに「気づく」「気づける」 人であってほしいと思います。
提出物の期限を守る、時間を守る。忘れものをしないというルールを守る最低限度のこと。
社会人としての心構え、コミュニケーション力。
まずは体調管理をしっかりして、子ども達の前に元気に立つこと
社会人として望ましい仕事への取り込む姿勢・態度・最低限のビジネスマナー(あいさつ、身なり等)が身につけていること
報告・連絡・相談をすること、あいさつをすること、他職員とコミュニケーションを取って連携を図ること。 メモを取る
挨拶など社会人としてのマナー 問題を解決しようとする力

実習と違い、責任が問われる仕事であることの自覚を持つておくこと。
あたり前の事をあたり前に遂行する力
失敗してもくじけない心、わからないことを聞く力
足りないということではなく、社会人としてコミュニケーションを図る基本として挨拶等できればいいと感じる。
社会人として必要最低限のコミュニケーション力(挨拶、報告・連絡・相談すること)・他者との協調性をもち、受身・指示待ちでなく、自分から発信・行動できる姿勢
一人一人の資質にかかわることだと思いますので特にはございません。・皆にあてはまることではありませんが、『やってみたいこと、やりたいこと』を具体的に伝えることは、全体的に弱い部分だと感じています。
仕事に対する意欲や積極性 専門スキルや知識
明るい笑顔や元気な挨拶があるとよい・分からないことを尋ねたり困っていること悩んでいることをそのままにせず 相談したりする姿勢

II-3-4.◆国際観光学科

自分の価値観がすべてではなく、多くの考え方を吸収し、日々の成長に活かすことができる柔軟性のある（成長意欲のある）学生達がいらっしやると嬉しいです。
弊社は寮生活が中心ということもあり、積極的に他者と良好な人間関係を築ける能力が不可欠です。佐藤さんは十分身に付けておられるようです。
自分自身の将来像（イメージ）

4. 新入職員の専門知識・技術として不足しているもの

II-4-1.◆社会福祉学科

不足しているものは、自分が将来どうなりたいのか、どうしていききたいのかという姿勢や想い(気持ち)のように思います。
知識をエビデンスをふまえて、行動に移す
専門知識、技術に関して不足は感じません。
社会福祉全般の知識はお持ちのようですが医学に関するものは漢字の読み方 など分からない事が多いようです。骨格の部位などもそうですが、医療ソーシャルワーカー そして求められる知識は、幅広いものと病感されておられると思います。・特段問題になる程、困るというものではありません。面接技術に関してもより充実できれば 現場での共通言語も増え、指導しやすくなるかも
パソコンスキル 自発的な行動、言動、自性 最低限のビジネスマナー、コミュニケーション力
高齢者の危険予知トレーニング、事故時の対応の基本的な知識 一般的な生活歴、時代背景の知識
利用者様の訴えを理解し、説明すること。 残存機能を活した介助方法。 利用者様の状態把握、普段の利用者様との関わり。

II-4-2.◆看護学科

国試に合格し、養成施設が卒業と判断して送り出されたのであれば、一定の水準は担保されていると感じています。あとは、働きながら私たちと一緒に知識や技術を高めていくものだと思います。敢えてお伝えするとしたら、できるだけ「体験」を多く積まれると良いのではないかと思います。(シミュレーターでも良いので…)
想像力を働かせたアセスメント能力や、知識と知識を結びつける力が求められます。コロナ禍で実習が少なかった分、知識面でのレベルが高いと思っていましたが、必ずしもそうではありませんでした。技術については最低限のことはできていると思いますが、それも現場で徐々に身につけていくものだと考えます。
学校で学んだ知識を表現することができていない
専門的知識・技術は入職に習得すれば良いと思いますが、解剖や生理等、基礎科目を学んでおいて欲しい
優先順位を考え行動すること アセスメント力が弱く記録が書けない
看護職は、専門職という自覚を持ち、主体的に学習に取り組む必要 あるため、自発的に研修会等に参加してもらえると良いと思われます。
手術室看護を学ぶ時間をさらに設けていただけると、周手術期看護を担う看護師として現場にスムーズに適応できるようになると思います。
患者の全体像を捉える方法の理解が不足している。ヘンダーソンの14項目アセスメント能力、関連図の構成、表記などを深めて頂きたい。
患者の状態を連続している中の一場面としてではなく、その時点の状態でしか使えることができないことが多いように思います。
患者さんを看る上で、教科書や参考書に記載されている病態や看護は基本でしかありませんが、その知識すらも学習できていない為、目の前の患者さんに対応する能力が非常に不足している。業務=タスクなため、こなせば終わり、相手の立場や目線に立って看護をする事ができない人が増えていきます。
コミュニケーション能力 患者さんの言葉の背後にかくされている思いをかんじることができ、適切な言葉で伝えることができるといいです
患者や同僚、働くことでアサーティブコミュニケーション、麻酔薬、鎮静鎮痛薬などの薬学、カルテからのその必要収集など、患者の全体像を捉えられること
現在は介護職として働いておられるため看護についての知識は確認していません。現場で働かれ、少しずつ慣れてこられています。仕事に対する責任感を身につけてもらいリーダーシップを発揮できるよう成長されることを期待します。

II-4-3.◆幼児教育

ペープサートやパネルシアターなど保育の現場ですぐに役立つ物を作ったり、演じたりする 経験があると良いと思います。 自分の思いを言葉で伝えたり、他者とのコミュニケーションスキルを身につけることも大切だと思います。
幼児の発達理解

初めから専門知識は不足していて当然です。他者と協調しながら 身についていくので問題ありません。
表現(うた劇等) 専門知識と実践が結びついて、保育ができると更に良いと思われる。
学ぼうとする意欲があれば、入職時に多少の知識技術が不足していてもその後 十分に補えるので、しっかりとした志を持って入職していただけたらと思います。
保育教諭になるということは、今までの実習で学んできたこととは違う初めてのことが多いと思います。園での担任としての保育、自分の役割、その他の仕事内容等 については、日々経験を重ねて学んでもらえばよいと思っています。
保育に対する準備、自分なりの準備
積極的に発達に応じた教材準備ができると良いと思われる
人と関わる仕事に必要なコミュニケーションの基本ともいえる「笑顔」「元気さ」を大切にしてほしい →専門知識・技術はいずれ身につく
知識や技術は経験していく中で身に付けていってほしいと思っているので不足は感じていません。
こどもの成長・発達を見る力
専門知識・技術は入職後にしっかり身に付けてもらえれば大丈夫です。
発達、育ちは多様なので実習等で子どもと関わる機会を増やすなどし、基本的な子どもと向き合う、関わるという姿勢が身についてほしいと感じる。
学校でしっかりと学んできていただければ、あとは入職後に身につくものだと考えております。
積極的にコミュニケーションをとること。 保護者の対応について、相手と会話をする際丁寧な話し方を心がける
子どもの前に立った時の話し方や導入の仕方 手遊びや簡単な体操のレパートリーがあるとよい

II-4-4.◆国際観光学科

機械、運転、調理の専門職はしかるべき免許等が必要ですがそれ以外は入社後に習得で結構です。
入社後に身につけてもらえば良い

5. その他、本学の教育に対するご指摘、ご要望など

II-5-1.◆社会福祉学科

良い人材を採用させて頂き、ありがとうございます。
現場での実習がたりないのか、 掃除の仕方もわからないので、日本の学校生活での指導をしてほしい
今後とも宜しくお願いいたします。
柴田さんはとても実直な方で、患者さまからも愛されております。少しずつですが貴重な存在へと変わりつつあります。今後とも双方の繋がりを 継続させて頂きたいと存じます。よろしくお願い致します。中村先生、いつもありがとうございます！
あすみる以外の他事業所からも最近の新入社員に対し 「伝わらない、 行動がおかしい、 仕事が出来

ない、すぐ辞めていく」 と多々聞かれますが、 どちらも人手不足ということもあって、 注意や指導がしづらい状 況かと思います。 短大の限られた時間やその人の人間性のなかで、何を学び・行動に移していくかは考えさせられるところです。悪く書いたところもありますが彼女の今後の成長に期待しています。
介護・福祉の仕事に就きたいと考える生徒を育てていただき ありがとうございます。今後とも、よろしくをお願いします。 追記 中山優珠さん ががんばっています。入職してくれて感謝です。
介護施設での実習評価に対する不足分の指導は十分にされていたのか
矢地様は誠に残念ながら一身上の都合でご退職されました。 上記の評価は在職時点でのものになります。

II-5-2.◆看護学科

上記に記載した内容は一般的なことです。浅野さんについて言えば、常識的であり、報告や連絡は最低限きちんと行えているのでご安心ください。自分から積極的にアピールするタイプではありませんが、黙々と業務を進める方です。患者様に対しても丁寧で、一生懸命努力されています。
学校(先生)がどのような指導、助言をしているのかわからない→実習中先生が話して助言しているがこちらの担当者と違う事を言っていないか、こちらの指導で問題がないかすり合わせる事がない
本人はよくやってくれていると思います。 指摘はよくわかりません,
エイさんは、学ぶ姿勢も、技術の収得力も高く、今後の活躍を 期待しています。
継続して今後も入職して下さる方がいたらありがたいです。今回繋がりを持てて良かったです。今後ともよろしくお願い致します。
責任感が強く、真摯に仕事に取り組んでおられます。 自身の体調管理もしっかりと行えております。これからもよろしくお願い致します。
THIN さんは、日頃から前向きで、誰に対しても丁寧に接し、積極的に行動してくださっています。また、救急外来や入院患者さんに通訳が必要な場合などにも活躍していただき、大変頼もしく感じています
ティンザーさんは自ら進んで患者さんへ声をかける笑顔での対応がスマートです。時々 言語の壁にぶつかることもありますが、分からない言語を自ら進んで学ぶ姿勢があり患者さんからティンザーさん今日はいないの?と求められる存在です。これからも患者さんへすすんで向き合えるコミュニケーション能力のご指導宜しくお願い致します
ICU に配属となったため、上記の評価はやや厳しいかもしれませんが、重症患者・看護実践の習得・実践にとても頑張っています。学生時代のベース、本人の努力、教育があるからこそだと思います。
卒業生の新人看護師の活躍を知ってもらう機会や交流をもつことで当院に関心をもってもらえたと幸いです。
個人の能力かもしれませんが、履歴書に Word、Excel の基本的な入力が可能と記載されていましたが、実際は、基本的な入力も相当の支援が必要でした。PC の操作そのものが不慣れなようで、電子カルテを使用するのも苦戦していた様子があります。総合病院等では紙カルテの場所は少なくなっていると思いますので、PC での作業にも慣れた状態で送り出していただけると良いかと思います。
今年度より基礎看護実習にきていただいています。役割拡大が期待されている 看護職で質の高い看

護が提供できますよう人材育成に関わりたいと考えています。当院へのご要望ありましたらいつでも言ってください。今後ともどうぞよろしくおねがいたします。
接遇
外国の方なので、今年は、育成するうえでもとても悩みました。国試に合格するので能力は高いと理解しています。しかし、日本の医療の中で 彼女達が困ることなく、臨床に入っていけるような支援をしていただけたらと思います。
LEILEIWWN さんは3月末をもって退職を希望されています。(美容クリニックへの転職)。就職にあたっての施設選びには本人の考えるキャリアビジョンをしっかりとみつめ、適性を見極めていただけると幸いです。

II-5-3.◆幼児教育

専門的な知識とともに人間関係が深く関わる仕事なので、人と関わることの楽しさや 困難にあった時の向き合い方など様々な経験の中で得てほしいと思います。(キャンプや登山などの自然体験・・・SNS から離れた状況での体験)
佐藤さんが入職してくださったこと、心から感謝しています。 今後も貴校には、障害福祉へのご理解をいただけましたら幸いです。
最低限のルールを守りながら、コミュニケーションを大切にすごせる社会人となって就職してほしい。 新原先生の育ちを職員みんなでサポートしています。 ぜひ来年再来年、社会人として頑張れる学生さんお待ちしてます!!
細い支援が必要な学生も増えてくると思いますか 手厚いサポートをして自信を付けてあげてください。
※彼に対する評価が低いのではなく、彼の伸びしろに期待して評価させていただきました。
松浦唯さん 他の職員ともコミュニケーションをとり がんばって働いておられます
特にはございません、今後ともよろしくお願いします
当園に就職できるよう配慮下さいますようよろしくお願いします。

II-5-4.◆国際観光

今後ともよろしくお願い致します
※入社前に連絡が取れなくなり、結局入社に至りませんでした。

III. まとめ

III-1.◆社会福祉学科

【入職前に身に付けて欲しいこと】

本学社会福祉学科の卒業生を含め、入職前に身に付けて欲しいことは下記の項目に示すように報連相を徹底し、社会人としてのマナーを守り、協調性と責任感を持って仕事に取り組む姿勢」が求められている。

1. コミュニケーション能力の向上

- ・ 報告・連絡・相談（報連相）のスキルを身につける
- ・ 言葉の意図を正しく伝え、齟齬を防ぐ
- ・ 敬語やビジネスマナー（電話対応含む）を習得する
- ・ SNS やネットリテラシーに関する意識を高める

2. 協調性・チームワークの強化

- ・ 上司や同僚との関係を築き、適切な距離感を保つ
- ・ 周囲をよく観察し、状況に応じた行動をとる
- ・ 相手への配慮や思いやりを持った言動を意識する

3. 社会人としての基礎意識

- ・ 規範やルールを守る（適切な服装・マナー）
- ・ 自己中心的な考えを改め、責任感を持つ
- ・ わからないことは素直に「わからない」と伝える

4. 成長意欲・仕事への姿勢

- ・ 指摘や助言を受け入れ、学び続ける姿勢を持つ
- ・ 自分の目標を持ち、スキルアップに努める
- ・ 探求心を持ち、疑問を持ったなら自ら調べる

5. 忍耐力と継続力

- ・ 仕事の効率化を意識しながら業務を進める
- ・ 少なくとも3年間は仕事を続け、成長する意識を持つ

【新入職員の専門知識・技術として不足しているもの】

本学社会福祉学科の卒業生を含め、新入職員の専門知識・技術として不足しているものは下記の項目に示すように「医学的知識や実践スキルの補強、パソコンやビジネスマナーの習得、主体性を持った行動」とのこと。

1. 知識の活用と応用力

- ・ 知識をエビデンスに基づいて行動に移す力
- ・ 医学に関する基礎知識（漢字の読み方、骨格の部位など）
- ・ 高齢者の危険予知や事故時の対応の基本知識

2. 実践的なスキル

- ・ 面接技術の向上（現場での共通言語を増やす）
- ・ 利用者の訴えを理解し、適切に説明できる力
- ・ 利用者の残存機能を活かした介助方法
- ・ 利用者の状態把握と日常的な関わり方

3. 基本的なビジネススキル

- ・ パソコンスキルの向上
- ・ 最低限のビジネスマナー（挨拶、敬語、メール対応）
- ・ コミュニケーション力の強化

4. 自発性・主体性

- ・ 自発的な行動や発言をする姿勢
- ・ 仕事に対する意欲や将来のビジョンを明確に持つ

5. 社会的・歴史的背景の理解

- ・ 一般的な生活歴や時代背景の知識（特に高齢者との関わりに必要）

【その他、本学社会福祉学科の教育に対するご指摘、ご要望】

本学社会福祉学科の教育に対し、下記の項目に示すように「良い人材を育てていただき感謝している一方、実習の充実や基本的な生活指導の強化を求める」との謝辞と要望が寄せられている。

1. 謝辞

- ・ 良い人材を採用させていただき、感謝しています。
- ・ ○○さんは実直で患者からも愛されており、貴重な存在に成長しています。
- ・ 介護・福祉の仕事に就きたいと考える生徒を育てていただき、ありがとうございます。
- ・ ○○さんががんばっています。入職してくれて感謝しています。
- ・ ○○先生、いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

2. 要望

- ・ 掃除の仕方など、日本の学校生活での基本的な指導もしてほしい。
- ・ 実習が不足しているため、現場での実践力を強化する教育をお願いします。
- ・ 新入社員に対する「伝わらない」「行動がおかしい」という問題が見られるので、基本的な行動指導

を検討してほしい。

【総まとめ】

社会福祉学科の卒業生には、報連相を徹底し、社会人マナーを守り、協調性と責任感を持って仕事に取り組む姿勢が求められている。特に、円滑なコミュニケーション力や社会人基礎力、継続して学び成長する意識が必要とされる。専門知識・技術面では、医学的知識、実践スキル、パソコンスキル、主体性が不足しており、エビデンスに基づいた行動や高齢者への対応力の向上が求められている。学校への要望として、実習の充実、基本的な生活指導、行動指導の強化が挙げられ、卒業生の活躍への感謝とともに、さらなる実践的教育の強化が期待されている。このことは 2 項目目の分析結果である就職先の職員が新入職員に求めるスキルにおいて社会福祉学科生はチームワーク・リーダーシップ、自己管理能力の強化が求められている分析結果と共通している。また、冒頭の分析結果である本学を卒業した新入職員の評価においてC 論理的思考力、D 問題解決力、E 自己管理能力も「2.やや劣る」「1.劣る」の評価が 1～5 与えられておりこの分野での強化が求められる分析結果と共通しているため、実践的教育の強化が求められている（具体案は II-1-2.参照）。

III-2.◆看護学科

【入職前に身に付けて欲しいこと】

本学看護学科の卒業生を含め、入職前に身に付けて欲しいことは下記の項目に示すように「コミュニケーション力を高め、社会人基礎力を身につけ、向上心と責任感を持って主体的に行動する姿勢」が求められている。

1. コミュニケーション能力の向上

- ・他者へ正しく伝える力（報告・連絡・相談）
- ・他職種との連携を意識し、円滑なコミュニケーションを図る
- ・他者と関わる機会を増やし、人に頼る・相談する習慣をつける
- ・言語化して伝える力を身につける

2. 社会人基礎力の習得

- ・社会や施設のルールを守る（体調不良時の報告、遅刻・欠勤の連絡、提出期限の厳守）
- ・ビジネスマナー（挨拶、メールの書き方、敬語）を身につける
- ・主体性・課題発見力・チームワーク力を意識して行動する

3. 仕事への意識と向上心

- ・積極的に学び、受け身にならず主体的に取り組む
- ・指導を受け入れ、振り返りを行い、実践につなげる
- ・自己管理能力を高め、継続して学習する習慣を持つ

4. 倫理観・責任感の強化

- ・患者・利用者を尊重し、敬意を持って接する
- ・職業人としての意識を持ち、自律した行動を心がける
- ・自分の行動に責任を持ち、チームの一員として貢献する

【新入職員の専門知識・技術として不足しているもの】

本学看護学科の卒業生を含め、新入職員の専門知識・技術として不足しているものは下記の項目に示すように「患者の全体像を捉えるアセスメント力、基礎医学知識の強化、実践経験の増加、優先順位を考える力、適切なコミュニケーション、専門職としての主体性と責任感の向上」とのこと。

1. アセスメント能力の不足

- ・患者の全体像を捉える力が弱い
- ・ヘンダーソンの14項目アセスメントの理解不足
- ・知識と知識を結びつける力が不足
- ・アセスメント結果を他のスタッフにも分かりやすく記録する力が不足

2. 基礎医学知識の強化

- ・解剖学・生理学などの基礎知識の理解を深める
- ・麻酔薬、鎮静・鎮痛薬などの薬学知識の習得
- ・カルテから必要な情報を収集するスキル

3. 実践力・体験不足

- ・コロナ禍での実習不足による体験の少なさ
- ・シミュレーターなどを活用し、実践経験を増やす
- ・看護業務を単なるタスクとして捉えず、患者の立場で考える力

4. 優先順位を考える力

- ・状況を判断し、適切な行動の優先順位をつける能力が不足
- ・記録を正確に書く力を身につける

5. コミュニケーション能力の向上

- ・アサーティブコミュニケーション（適切な表現力）の習得
- ・患者の言葉の背後にある思いをくみ取る力

6. 専門職としての主体性

- ・自発的に学び、研修会に参加する姿勢の強化
- ・手術室看護など、専門領域の知識を深める

7. 責任感とリーダーシップの意識

- ・仕事に対する責任感を持ち、主体的に動く
- ・将来的にリーダーシップを発揮できる人材へ成長する意識

【その他、本学看護学科の教育に対するご指摘、ご要望】

本学看護学科の教育に対し、下記の項目に示すように「優秀な人材を送り出してくれたことに感謝しつつ、実習指導の共有、PC スキルの強化、外国人支援、キャリア指導の充実を希望する」との謝辞と要望が寄せられている。

1. 謝辞

- ・良い人材を送り出していただき感謝しています。卒業生は真摯に業務に取り組み、患者様からの信頼も得ています。
- ・学ぶ姿勢や技術習得力が高い卒業生がおり、今後の活躍が期待できます。
- ・ICU などの厳しい環境でも努力しており、学生時代の教育の成果を感じています。
- ・卒業生の活躍を知る機会や交流の場があると、より関心を持ってもらえると思います。
- ・継続して優秀な人材が入職することを期待し、今後とも連携を深めていきたいと考えています。

2. 要望

- ・実習時の指導方針のすり合わせを行い、現場とのギャップを減らしたい。
- ・PC スキル（Word・Excel・電子カルテ）の習得を強化し、現場での適応力を高めてほしい。
- ・外国人卒業生が日本の医療環境にスムーズに適応できる支援を強化してほしい。
- ・キャリアビジョンを明確にし、適性に合った職場選びの指導を充実させてほしい。

【総まとめ】

看護学科の卒業生には、コミュニケーション力、社会人基礎力、向上心と責任感を持った主体的な行動が求められている。特に報連相や他職種との連携、ビジネスマナー、自己管理の徹底が必要とされる。専門知識・技術面では、アセスメント能力、基礎医学知識、実践経験、優先順位の判断力、リーダーシップが不足しており、実習の充実や主体的な学習姿勢の強化が求められる。学校への要望として、実習指導の共有、PC スキルの強化、外国人支援、キャリア指導の充実が挙げられ、卒業生の活躍への感謝とともに、より実践的な教育の継続が期待されている。このことは 2 項目目の分析結果である就職先の職員が新入職員に求めるスキルにおいて本学看護学科生はチームワーク・リーダーシップ力の強化が求められている分析結果と共通している。また、冒頭の分析結果である本学を卒業した新入職員の評価において A 知識・理解力と D 問題解決力とで「2.やや劣る」の評価を 4～6 名与えられておりこの分野での強化を求める点で共通しており、実践において強化していく必要性がある。

III-3.◆幼児教育学科

【入職前に身に付けて欲しいこと】

幼児教育学科の卒業生を含め、入職前に身に付けて欲しいことは下記の項目に示すように「社会人とし

ての基本マナーを守り、積極的に学び、責任感を持って仕事に取り組む姿勢」が求められている。

1. 基本的な社会人マナー

- ・明るく元気に挨拶をする
- ・時間や提出期限を守る
- ・身だしなみに気を配る
- ・電話対応や正しい言葉遣いを身につける

2. コミュニケーション力の向上

- ・報告・連絡・相談（報連相）をしっかりと行う
- ・他職員と連携し、積極的にコミュニケーションをとる
- ・わからないことを素直に尋ねる、相談する

3. 仕事への意欲と姿勢

- ・失敗を恐れず挑戦し、振り返る習慣をつける
- ・積極的に学び、向上心を持つ
- ・受け身ではなく、自ら発信・行動する

4. 責任感と自己管理

- ・実習と違い、仕事には責任があることを自覚する
- ・体調管理を徹底し、元気に業務に取り組む
- ・問題を解決しようとする姿勢を持つ

5. 自分の考えや目標を持つ

- ・「やりたいこと」「目指す姿」を具体的に伝える
- ・仕事への意欲や専門知識を深めていく姿勢を持つ

【新入職員の専門知識・技術として不足しているもの】

本学幼児教育学科の卒業生を含め、新入職員の専門知識・技術として不足しているものは下記の項目に示すように「保育で使える技術の習得、幼児の発達理解、保育計画力、適切なコミュニケーションスキル、専門知識と実践の結びつけ」とのこと。

1. 保育現場で役立つ技術の習得

- ・ペープサートやパネルシアターなど、保育で使える表現技術の経験不足
- ・手遊びや簡単な体操のレパートリーを増やす
- ・歌や劇の表現力を高める

2. 幼児の発達理解と保育スキル

- ・ 幼児の発達理解を深める
- ・ 子どもの成長・発達を見る力を身につける
- ・ 実習を通じて、子どもとの関わり方の経験を増やす

3. 保育に対する準備・計画力

- ・ 保育の準備を計画的に行うスキル
- ・ 発達段階に応じた教材準備の経験不足

4. コミュニケーションスキル

- ・ 子どもへの話し方や導入の仕方の習得
- ・ 保護者対応時の丁寧な話し方を身につける
- ・ 笑顔や元気を意識し、積極的にコミュニケーションを取る

5. 実践と専門知識の結びつき

- ・ 専門知識と実践を関連づけた保育の経験が不足
- ・ 保育教諭としての役割意識を持ち、日々の経験を活かす姿勢

【その他、本学幼児教育学科の教育に対するご指摘、ご要望】

本学幼児教育学科の教育に対し、下記の項目に示すように「卒業生の活躍に感謝しつつ、対人スキルを伸ばす経験の提供、細やかな支援、就職への配慮を求める」との謝辞と要望が寄せられている。

1. 謝辞

- ・ 入職してくださった卒業生に感謝しており、今後の活躍にも期待しています。
- ・ 貴校の障害福祉への理解に感謝し、引き続きのご協力をお願いします。
- ・ 卒業生は職員とも良好な関係を築きながら頑張っている。
- ・ 今後も社会人として頑張れる学生を送り出してほしい。
- ・ ○○さんの成長を職員一同でサポートしています。

2. 要望

- ・ 人と関わる仕事なので、対人スキルを養う経験(キャンプや登山などの自然体験)を取り入れてほしい。
- ・ 最低限のルールを守りながら、円滑なコミュニケーションを取る力を育てほしい。
- ・ 細やかな支援が必要な学生も増えているため、手厚いサポートで自信をつける指導を希望。
- ・ 卒業生が当園に就職できるよう配慮をお願いしたい。

【総まとめ】

幼児教育学科生の新入職員には、基本的な社会人マナー、積極的な学習姿勢、責任感、コミュニケーション能力の向上が求められている。特に、報連相の徹底や保護者対応、目標意識を持った行動が必要とさ

れる。専門知識・技術面では、保育現場で役立つ技術の習得、幼児の発達理解、保育計画力、実践と知識の結びつきが不足しており、実習や経験を通じて補うことが求められている。また、学校への要望として、対人スキルを伸ばす経験の提供、細やかな支援、就職への配慮が挙げられ、卒業生の活躍に対する感謝とともに、今後も実践的な教育の充実が期待されている。このことは冒頭の分析結果である本学を卒業した新入職員の評価において A 知識・理解力、C 論理的思考力、D 問題解決力、E 自己管理力、F チームワーク・リーダーシップ、G 倫理観において 4～5 名が「2.がやや劣る」 の評価を受けた分析結果と共通しており実践において強化していく必要がある。

III-4.◆国際観光学科

【入職前に身に付けて欲しいこと】

国際観光学科の卒業生を含め、入職前に身に付けて欲しいことは下記の項目に示すように「柔軟性を持ち、多様な考えを吸収しながら成長し、良好な人間関係を築きつつ、自分の将来像を意識する姿勢」が求められている。

1. 柔軟性と成長意欲

- ・自分の価値観に固執せず、多様な考え方を受け入れる
- ・吸収した知識や経験を日々の成長に活かす

2. 対人関係の構築

- ・他者と積極的に関わり、良好な人間関係を築く能力
- ・チームワークを円滑に進めるための協調性

3. キャリア意識の向上

- ・自分自身の将来像を持ち、目標を意識して行動する

【新入職員の専門知識・技術として不足しているもの】

本学国際観光学科の卒業生を含め、新入職員の専門知識・技術として、機械、運転、調理の専門職はしるべき免許等が必要であるがそれ以外は入社後に習得でよいとのこと。このことは II-2-5 の新入職員に最も重視するもので A 知識・理解力、B 専門技術が共に 0 である結果とも一致する。

【その他、本学幼児教育学科の教育に対するご指摘、ご要望】

本学国際観光学科の教育に対し、入社前に連絡が取れなくなった生徒がいる一方で今後ともよろしくお願い致しますという謝辞も寄せられている。

【総まとめ】

本学国際観光学科の卒業生には、柔軟性を持ち、多様な考えを吸収しながら成長し、良好な人間関係を築きつつ、自分の将来像を意識する姿勢が求められている。特に、異なる価値観を受け入れる力や協調性、キャリア意識の向上が必要とされる。専門知識・技術面では、機械、運転、調理の専門職は免許が必要だ

が、それ以外は入社後の習得で問題なしとされている。また、学校への要望として、入社前に連絡が取れなくなる学生への対応が課題とされる一方で、卒業生への評価や今後の連携に対する謝辞も寄せられている。このことは冒頭の分析結果である本学を卒業した新入職員の評価 II-1-5 においてコミュニケーション力と協調性の高さを評価されていることと共通している一方で、自己管理能力で「2.やや劣る」の評価を受けている卒業生もいることからこの分野での強化が求められている。また、新入職員に対して最も重視する II-2-5 の分析結果において本学国際観光学科生はチームワーク・リーダーシップ力の強化が求められているとなっていることも II-3～5 の要望と共通していることから実践において強化していく必要性がある。

IV.学科ごとの考察

社会福祉学科	高い倫理観の育成について評価されている点は学科でも強化している点であり、評価したい。一方、問題解決能力やコミュニケーション能力については、近年、病気や障害を抱えて入学してくる学生が増加傾向にあり、個別支援が必要と考える。また、求められているスキルとして、チームワーク、リーダーシップ、自己管理能力が挙げられているが、チームワークやリーダーシップについては教育内容にも入っている部分でもあり、今後強化していかなければいけないと考える。さらに社会人としてのマナーなどについては、授業において修得できるものではないため、日々の学生生活の中で教員だけでなく職員も含めた取り組みが必要である。
看護学科	「ワードエクセル入力が可能とあったが PC 操作が不慣れ」の指摘に対して、学生が Google ドキュメントなどでレポート、実習の記録、スライド作成をスマホでできるようになって、 便利な反面パソコンを使わない学生が増えている現状です。スマホの入力の方が早いからだそうです。 電子カルテの PC 入力することを念頭にパソコンを使うことを 2～3 年生に伝えていくとよいと思います。 1 年生の情報で学んだことが生かせないのは残念。 新 1 年生電子教科書のためは自分の PC を持って登校することになるので、使う機会は増えると予想。 先生がどのように指導しているかわからない」について 教員と実習指導者の関係、学生への指導がわからない点、 実習指導体制や実習中に実習指導者とコミュニケーションが充分ではないことから不満や不信感が貯まっている。そのことが就職する学生に影響していると推察される。今後病院との関係性は良くするために、基礎看護実習等のあとにはお礼、振り返り、実習報告（報告書）など学校として担当者以外の責任者が説明に行く必要がある病院との誤解を埋めることが至急望まれる。 外国人の卒業生の評価について

	大変前向きで人柄がよいと褒められている。言葉と記録(アセスメント)は弱く、課題が残るが努力がアサーティブなコミュニケーション力、患者との対応については問題がない 全体的に 接遇、言葉遣いに対する要望があった。一方、教育のペースがある、真摯な態度、ビジョンがしっかりしている等沢山褒めてもらうこともできている。 今後の対策 学内演習や実習において挨拶、礼儀、接遇、指導者との対応の仕方等を習慣化できる取り組みを次年度から始めたい。
幼児教育学科	全項目において概ね高い評価を頂いていると感じられる。特にコミュニケーション能力が高評価であることは学科の目標であり、これは総合演習等の実践から学ぶことで身につけているのではないかと考えられる。一方で論理的思考力や問題解決力は自己認知がさらにしっかりできるように指導が必要であると判明した。各施設のコメントにもあるように、知識やスキルは現場で身につくものと理解いただいていることを考えると、今後は、マナーやモラルの一般常識的な部分と学生個人の様々なヒト・コト・モノに対応する能力（育てたいと思える人になる）を育てていくことが必要であると考えます。
国際観光学科	回答が4企業からと少ないため、考察の内容には足りないが、評価項目の普通が多く、一部でやや優秀という評価をいただくことができた。企業が重視しているスキルとしては、「コミュニケーション力」「自己管理能力」「チームワーク・リーダーシップ」、「倫理観」が上位と示した企業という結果であった。今後の学生指導や授業でのシラバス・教授法の見直しの際には、ぜひ参考し、検討していきたい。
専攻科看護学専攻	回答が得られなかったため考察不可

V.令和5年卒業生対象の就職先アンケート結果との比較

昨年の令和5年卒業生対象に行った就職先アンケート結果と今回のアンケート結果を比較したところ、下記に示すようにコミュニケーション力や専門技術の向上、実習の充実など一定の成果を上げている一方、問題解決力やPCスキル、外国人学生の支援、キャリア指導などは依然として改善の余地がある。特に、職場で求められる即戦力としてのスキルや社会人基礎力の強化が今後の課題として挙げられる

【向上点】

- ① コミュニケーション力の向上：新入職員の報連相（報告・連絡・相談）が向上し、職場での円滑なやり取りが増えた、チームワーク・リーダーシップの評価が高まり、職員間の連携がスムーズになった

- ② 実践的な知識向上：保育・看護分野において、実践的な知識が向上し、現場での即戦力としての評価が向上、幼児教育学科では、専門技術やコミュニケーション能力の評価が高まった、コロナ禍の影響が軽減し、実習の機会が増えたことで、実務経験の不足が若干解消された
- ③ 自己管理能力向上：学生の時間管理やストレスマネジメントの意識が高まり、職場での自己管理能力が向上

【要改善点】

- ① 問題解決力・論理的思考力の不足：課題解決や判断力が低いとの評価が依然として多く、業務における優先順位付けや自主的な対応力が不足
- ② 基礎的な PC スキル：Word、Excel、電子カルテ操作などの基礎的な PC スキルが不足しており、業務効率に影響を及ぼしている
- ③ 外国人学生への支援不足：日本の医療・福祉現場への適応をサポートする教育、日本の医療・福祉現場への適応をサポートする教育が不足しており、言語や文化の壁を感じる場面が多い、キャリア意識の醸成不足
- ④ 就職前後のキャリア支援：就職前後のキャリア支援が十分でなく、自分の将来像を具体的に持てていない学生が多い、社会人基礎力の指導強化、適正の見極め強化、1 年未満での転職／退職は避けてもらいたいとの要望
- ⑤ 一部の学生が社会人としてのマナーやビジネスマナー：一部の学生が社会人としてのマナーやビジネスマナー（挨拶、敬語、電話対応）を身につけておらず、現場での指導が必要になっている

VI. 卒業生アンケートと就職先アンケート調査集計結果の比較

別途行った卒業生アンケート調査集計結果と本就職先アンケート調査集計結果から卒業生が学校に求めることと就職先の職員が学校に求めることの共通点を比較したところ以下のような分析結果となった。

①コミュニケーション能力の向上

卒業生：現場での報連相スキルの強化や対人スキルの向上を求めている

就職先：新人の報連相が不足しており、他者との円滑な関係構築を求めている

②実践的なスキルの習得

卒業生：実習で正規職員・パート・クラスリーダーなど異なる立場の視点を経験できると良かったとの意見

就職先：新人の実践力不足が指摘され、即戦力となるスキル習得を期待

③社会人マナー・ビジネススキルの習得

卒業生：敬語や電話応対などのマナーを学びたかったとの意見

就職先：基本的なビジネスマナーの不足を指摘し、社会人基礎力の強化を要望

④主体性・責任感の向上

卒業生：自分の成長のために主体的に学ぶ機会を増やしたいとの意見

就職先：指示待ちではなく、自発的に行動できる姿勢を求めている

⑤メンタルケア・ストレス耐性の強化

卒業生：仕事の負担に対処するためのメンタルケアが必要と感じている

就職先：精神的な負担に耐えられる強さを持つことが求められている

⑥就職活動サポートの充実

卒業生：履歴書の書き方や面接対策をより充実させてほしいとの声

就職先：職場に適した人材を輩出できるよう、キャリア指導の強化を希望

⑦PC スキルの向上

卒業生：電子カルテや資料作成などの PC スキルを事前に学びたかった

就職先：最低限の PC スキル（Excel・Word）の習得を求めている

これらの共通点から、異なる立場の視点を体験するロールプレイングを行うなど実習を中心としたスキル強化、自己管理能力を含む社会人基礎力の向上、メンタルケアと適正把握を含むキャリア支援に重点的に取り組むことで、卒業生の満足度向上と就職先の評価向上に繋がると考えられる。卒業生の【もっと学びたかったこと・改善してほしいこと】も生の意見であり、教育改革・改善に有効であると考えられる。

VII. 分析者の所感

就職先アンケート調査 69 件（回収率 67.6%）、卒業生アンケート調査 23 件（回収率 21.2%）、全 102 件（回収率 48.6%）の生の声から貴重な情報を入手できたと考えます。一般的なアンケート調査は回収率を 30%目標としている場合が多く、特にオンライン調査では 20%～30%が有効回答率とされていることから、本アンケート調査の目的である『社会のニーズに応えられる人材の育成と輩出を図り、今後の本学の教育サービスの充実と改善につなげる、調査結果を踏まえた教育改革・改善』のために有効に活用することが望まれます。具体的には

- ・社会人基礎力の向上：挨拶・敬語・電話応対・社会人としてのマナー・報連相の仕方
- ・具体的なトラブル対応を想定し議論することにより問題解決力と論理的思考力を身に付ける
- ・異なる立場の視点（正規職員・パート・クラスリーダー・保護者役など）を体験／経験しそれぞれの役割と責任を疑似体験されるロールプレイングを実習に取り入れる
- ・自己管理能力を高める具体的な方法を教える（タイムマネジメント、期限を守る、メンタルケア・ストレス耐性、振り返り習慣 etc.）
- ・PC 操作に慣れておく：ダミーデータを用いた電子カルテ入力演習、レポートを書くための基本的な PC 操作（Word, Excel, タイピング）
- ・キャリア支援：履歴書の書き方や面接対策、外国人留学生のサポート（日本社会への理解力を高める）

などが挙げられます。すでに取り組んでいるものもあると思いますが実習ベースの実践演習を求める声が卒業生からも就職先からも多く聞こえるためより充実させていく必要性を感じます。

また、マナー研修やコミュニケーション力向上については対策としてそれぞれを向上させるようなプログラムや実習を行うことが大切だと思う一方で”なぜ挨拶をすると人間関係が良くなるのか？心地よく過ごせるのか？なぜビジネスマナーが求められるのか？”という WHY の部分も大切なように思います。コロナ禍、SNS 世代に育った 10,20 代の習慣を短大生から変えるのはなかなかむずかしいもの。だからこそ対面での挨拶やマナーがあることで、相手に直接「私はあなたの存在を尊重しています」というメッセージを伝えられ、より深い信頼関係につながるという存在価値、自己価値観の概念を伝えることも大切だと思います。AI や自動化が進む中で「人間らしいスキル」もより重要になっていきます。その中でも「対面での礼儀や印象」は AI にはできない人間特有の価値なので伝えていきたいものです。対面でのコミュニケーションが苦手な人が増えている今、逆に「ちょっとした挨拶やマナーができるだけで、圧倒的に好印象になる」ことが起きています。つまり、最低限の挨拶や礼儀ができるだけで、周りと差がつきやすい時代とも言えます。それを実感出来る事例と共にやるだけで得する視点を持たせ、実践例や調査結果を交えながら伝えて自分事として捉えてもらうことが大切だと思います（人は第一印象で 7 秒以内に評価を決めるなど）。本学生とすれ違う際は必ず挨拶を交わしてくれるので心地が良いものです。学内では出来ているのでおそらく社会に出てからも一定数は社会人ビジネスマナーを備えていると思われる。どんな形であれ仕事に従事している方たちは社会人ビジネスマナーが大切であることは頭では理解していると思います。それでも気持ちよく挨拶できないとき、報連相が滞るとき、対人関係がわるくなるときは誰しもあると思います。心身共に健康であることを最優先に考えられるようメンタル面を含めた自己管理方法も伝えていくと良いかと思います。職場で良い人間関係を築くための”自己管理（セルフマネジメント）”はキャリア設計とも密接に関わっているため、人生 100 年時代を生き抜く上でも大切な要素だと考えます。

次に問題解決力と論理的思考力については『言語化する力』がまずは必須となります。SNS 時代、圧倒的な情報量をインプットする場には事欠かない一方でアウトプットする場は限られています。取り入れた情報を自分の言葉で表現することが出来ないと論理的思考力も身に付かず、問題解決にも至らない場合が多いと思います。授業や実習でもこの事象について“あなたはどうか？どう考えるか？”ネットや AI が出した回答ではなく自分の経験や体験に基づいて考える、意見する、という機会を学生時代に多く持つことで社会に出てからも自信を持って自分の言葉で考えを述べる事が出来る人間に成長すると考えます。

次に PC 操作に慣れておく、については携帯やタブレット端末の操作に慣れている学生が社会に出て Word タイピング、Excel データ打ち込み、電子カルテ操作を必死で覚えるという状況がある一定数あるようです。これに関しては今後、音声認識技術の向上によって、文書を作成する際にキーボードを使わずに話すだけで済むようになる可能性はあるものの、完全にタイピングスキルが不要になるわけではなく、プログラミングやデータ入力など、特定の業務では引き続き重要である可能性が高いです。従って卒業時に MOS 検定を設けるなど条件を課すことで就職先での評価と能力差別化に繋がると考えます。

最後にキャリア支援についてですが、これからの教育は学生個々人の特性に合わせたオーダーメイド型になっていくと思います。新入生のときからプロファイリングとキャリアビジョンを基にキャリア支援を行い、それぞれの特性／適正と希望に合わせて必須科目に加えて横断型で教科を選んでいくことが

求められていくと思います。そのことが就職先の早期退職を防ぐことにも繋がり適材適所で働くことにも繋がります。また、外国人留学生のサポートも益々重要視されていくと思います。社会福祉、看護業界は国内従事者だけでは現場は回っていないため優秀な外国人留学生の受入れを待ち望んでいます。その際に障壁となるのが言語と文化的価値観の違いです。外国人留学生側だけでなく雇用者側や同僚、サポート側も異文化理解が必須となります。例えば日本や多くのアジア圏は行間や雰囲気を読みながら非言語コミュニケーションを取るハイコンテキスト文化である一方、欧米圏や一部のアジア圏では“言葉”を通じてコミュニケーションを取る必要がある（ローコンテキスト文化）、“分かってくれるだろう”は通用しないという異文化コミュニケーションの講義を学生時代に受けておくことで誤解が生じにくくなると思います。日本人同士でも職場での人間関係構築は容易ではないため、外国人留学生や外国人労働者のサポートはより難易度が上がることから日本人側の知識と意識改革も求められていると思います。

今回のアンケート結果では触れられていませんが介護現場に従事する若手職員からは“死に直面することへの恐れと不安の声も漏れ聞きます。慣れもあるとは思いますが逆にその死への慣れを目の当たりにしてリアリティショックを受け入れるのに時間がかかることが伺えます。難しい課題だとは思いますが学生のうちにリアリティショックの乗り越え方を少なくとも知識として備えていくことも重要ではないかと考えます。

本報告書と 2024 卒業生アンケート調査集計結果報告書を共に考察頂くことで本アンケート調査の目的である「社会のニーズに応じた人材を育成・輩出し、これを基にした教育サービスの充実と改善を図ること」が可能となり、卒業生の満足度に加え、就職先からの評価を向上させることができると考えます。

文責 キャリアコンサルタント 新田 ゆかり

VIII. 就職先アンケート調査表

1. 対象者の評価をお聞かせ下さい。(A～Hについて5段階評価)

評価項目(内容説明)			評価欄
			優秀⇔普通⇔劣る
A	知識・理解力	知識を順序だてて理解し、学んだ知識をつないでいくことができる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
B	専門技術	社会貢献・自己実現に専門技術を活用できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
C	論理的思考力	情報や知識を多角的、論理的に分析し、表現できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
D	問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
E	自己管理能力	自らを律して行動できる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
F	チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
G	倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
H	コミュニケーション力	言語や身体を用いて自己や他社の理解を深めるコミュニケーションができる。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
総 合 評 価 →			5 - 4 - 3 - 2 - 1

2. 本学卒業生に関わらず、貴施設・会社が新入職員に対して最も重視するもの順に3つお聞かせください。(上記 設問1の評価項目 A～H の記号でお選び頂き () 内に記入して下さい)

第1位 () 第2位 () 第3位 ()

3. 本学卒業生に関わらず、貴施設・会社が新入職員に対して足りないと感じていること、入職前に身につけておいてほしいことを教えてください。

4. 新入職員の専門知識・技術として不足しているものがあればその内容をお聞かせ下さい。

5. その他、本学の教育に対するご指摘、ご要望などございましたらご自由にご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。